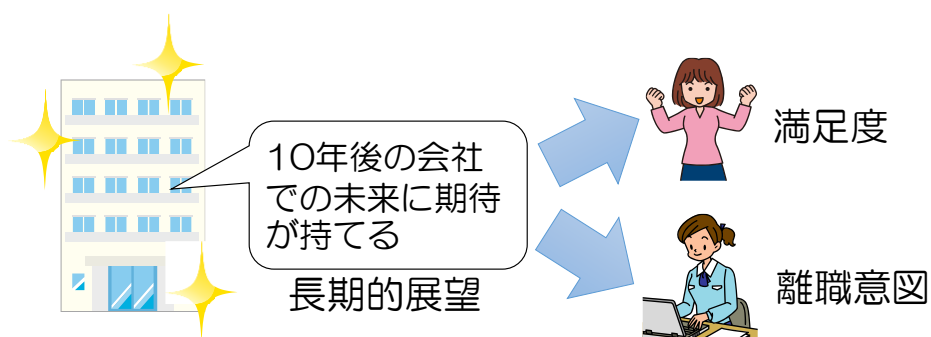


## 将来への期待度とIT技術者の満足度との関係を明らかに 不足するIT技術者の離職防止に有用

大阪公立大学工業高等専門学校総合工学システム学科 知能情報コース 中才恵太郎講師と近畿大学情報学部 角田雅照准教授らの研究グループは、将来への期待度とIT技術者の満足度との関係を明らかにしました。IT技術者は不足しており、技術者の離職をいかにして防ぐかは企業にとって非常に重要な課題です。所属組織と業務内容に対し、IT技術者が将来を期待できると考えた場合、満足度が高まるとともに離職意思が抑えられることを明らかにしました。

本研究に関する論文が、令和5年（2023年）12月8日（金）に電子情報通信学会が発行する英文論文誌“IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems”において早期公開されました。



### 1. ポイント

- IT技術者の満足度と離職意思に影響する要因を明らかにした
- 所属する組織と業務に対して将来を期待できる場合、満足度が高まり離職意思が抑えられる
- 将来に期待できるように職場環境を整えることにより、不足するIT技術者の離職を抑える

### 2. 研究の背景

企業におけるDX化の推進などにより、あらゆる業種でIT技術者の人材不足は深刻です。そのため、IT技術者の満足度を高め、離職を抑えることは非常に重要です。また、これまでの研究において、満足度は企業利益との関連が指摘されています。さらに技術者の離職意思が高い場合、優秀な人材が流出し、再雇用コストがかかることが指摘されています。これらのことから、企業にとって技術者の満足度を高めるとともに、離職意思を抑えることは非常に重要な課題といえます。

### 3. 研究の内容

これまで、IT技術者の満足度や離職意思に影響する要因が分析されてきましたが、それらの要因は会社の上司や仕事内容などに関するものでした。一方で、所属する組織とそこでの業務に対して、IT技術者が感じる将来性については、ほとんど分析されていませんでした。

IT技術者以外については、満足度と離職意思は、下記のような質問に基づく「見通し指標」と関係があることが指摘されていました。

1. 10年後の自分の会社のあるべき姿を認識している
2. 日々の仕事を消化するだけになっている
3. 上司から仕事上の目標をはっきり示されている
4. この会社において、自分の10年後の未来の姿にある程度期待がもてる

本研究では、IT技術者においても、見通し指標が満足度と離職意思に影響しているかを明らかにするため、23人のIT技術者にアンケートを行いました。その結果、見通し指標がIT技術者の満足度と離職意思に大きく影響していることが明らかとなりました。すなわち、上記質問1,3,4について「はい」、2について「いいえ」と答えている技術者ほど満足度が高く、離職意思が低い傾向が見られました。

より詳細には、見通し指標、平均残業時間、転職回数に基づいて満足度を推定した場合、おおむね10%の誤差、離職意思を推定した場合、おおむね23%の誤差となりました。

### 4. 今後の課題・展望

IT技術者は慢性的に不足しており、今後もこの状況が続くことが予想されます。そのため、IT技術者の満足度を高め、離職意思を抑えることにより、優秀な人材の流出と雇用コストの増加を防ぐことが重要となります。勤務体制やIT技術者とのコミュニケーションを改善し、技術者が所属する組織と業務に対して将来を期待できるよう、環境を整備することにより、企業の競争力が高まることが期待されます。

### 5. 論文掲載

掲載誌：“IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems (早期掲載)”

(発行：電子情報通信学会)

論文名：The Influence of Future Perspective on Job Satisfaction and Turnover Intention of Software Engineers

著者：近畿大学大学院総合理工学研究科2年（当時）山形 威久斗

近畿大学情報学部准教授 角田 雅照

大阪公立大学工業高等専門学校総合工学システム学科講師 中才 恵太郎